

## 2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科(昼間部)		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	生理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	前期 金曜4限	教室名	4校舎401
担 当 教 員	酒井 崇	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
人体の各器官における諸機能について学ぶ。解剖学を元として人体の仕組みに対する理解を深める。						
《成績評価の方法と基準》						
学期末試験(筆記)において60%以上の得点をもって合格とする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
適宜プリント配布 【参考図書】人体解剖の基本がわかる事典 西東社						
《授業外における学習方法》						
随時、授業の最初に前回授業内容に係わる確認問題を実施するので、復習しておくこと。						
《履修に当たっての留意点》						
生理学は、解剖学からの流れで身体の動きを考えることが大切です。内科学や病理学、聴覚・呼吸などの理解をするための基礎となります。正常な人体の働きを理解することで、異常な状態(疾病)を理解することができるようになるための重要な科目です。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	一般生理学の基礎を理解し、説明することができる。	教材、 配布資料、 スライド		
		各コマに おける 授業予定	細胞の構造、細胞膜の機能、興奮と伝達、筋収縮と活動電位、シナプス伝達について学ぶ。			
第2回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	血液、循環の働きを理解し、説明することができる。	教材、 配布資料、 スライド	事前学習として該当頁を 通読しておくこと	
		各コマに おける 授業予定	血液の成分、血液凝固、血液型、心臓の機能、血液循環、循環系の調節について学ぶ。			
第3回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	感覚機能の基礎、睡眠・記憶について理解し、説明することができる。	教材、 配布資料、 スライド	事前学習として該当頁を 通読しておくこと	
		各コマに おける 授業予定	感覚機能、脳波について学ぶ。			
第4回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	呼吸の働きを理解し、説明することができる。	教材、 配布資料、 スライド	事前学習として該当頁を 通読しておくこと	
		各コマに おける 授業予定	呼吸調節、呼吸運動について学ぶ。			
第5回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	消化器系、泌尿器系について理解し、説明することができる。	教材、 配布資料、 スライド	事前学習として該当頁を 通読しておくこと	
		各コマに おける 授業予定	嚥下、消化吸収、体液調節、尿の生成と排泄について学ぶ。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌系について理解し、説明することができる。	教材、配布資料、スライド	事前学習として該当頁を通読しておくこと
		各コマにおける授業予定	内分泌について学ぶ。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動機能の基礎について理解し、説明することができる。	教材、配布資料、スライド	事前学習として該当頁を通読しておくこと
		各コマにおける授業予定	脳、神経について学ぶ。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経系の成り立ち、働きについて理解し、説明することができる。	教材、配布資料、スライド	事前学習として該当頁を通読しておくこと
		各コマにおける授業予定	自律神経について学ぶ。		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			